

## 「開魂」

### 滋賀県安曇川町・泰山寺野開拓

滋賀県は中央部に琵琶湖と近江盆地があり、周囲を山脈・山地が取り囲んでいる。戦後、湖を囲むように 罫 の地区で開拓事業が進められた。

北西部の高島市安曇川町（あどがわちょう）の泰山寺野（たいさんじの）開拓地には、入植者によって開墾された広大な畑が広がっている。

1949（昭和 24）年から 52 年にかけて、地元の引揚者、二、三男及び長野県から計 20 戸が入植した。標高約 200 ㍎の扇状大地。雑木や針葉樹が密集していた。マツの木の抜根をとまなう開墾作業は大変で、開畑はなかなか進まなかった。

水田作には向かない土地だったため、ナタネやスイカを播種。54 年には、みの早生ダイコンを試作した。立派なダイコンがとれ、翌年には作付面積も増え、大津市場や京都市場に出荷できるようになった。農道の整備や水利施設の建設なども次第に進んだ。現在、名産品となっているダイコンをはじめ、高原野菜が広く栽培されている。

集落内の農業用倉庫の近くに開拓記念碑がある。77（昭和 52）年に泰山寺野開拓農協が建立したもので、碑銘は「開魂」。裏面には「言語に絶する幾多の苦難も開拓精神と協同の力によって克服し 日と共に発展拡充の度を加え 総面積五十ヘクタールの広大な畑作用地を完成し 二十戸の豊かな明るい農村が誕生した」と記し、入植者の氏名が刻まれている。

#### ・滋賀県高島市安曇川町：泰山寺野開拓

「開魂」 昭和 52 年 5 月 泰山寺野開拓農業協同組合

#### 碑文

昭和二十四年十月食糧増産の国策によって泰山寺野開拓事業は発足した。当初の入植者は新しい村落建設の意欲に燃えて泰山寺野山林と原野の開墾に努め以来入植者は協同と隣人愛をモットーとして村づくりを進めた。その間言語に絶する幾多の苦難も開拓精神と協同の力によって克服し、日と共に発展拡充の度を加え、総面積五十ヘクタールの広大な畑作用地を完成し、二十戸の豊かな明るい農村が誕生した。

今日迄苦勞を共にした同志相寄り茲に開拓記念碑を建立す。

昭和五十二年五月

泰山寺野開拓農業協同組合

入植者氏名 二十名（略）

